

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	プレゼンテーション英語	
科目基礎情報							
科目番号	0029		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	システム創成工学専攻 (情報システムコース)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	基礎から学ぶ英語プレゼンテーション (朝日出版社)						
担当教員	大北 勢津子						
到達目標							
1. 英語らしい表現パターンを習得し、適切に運用することができるようになる。 2. 自分自身の学ぶ習慣を充実させ、自分自身で「知りたい」ことを探究できるようになる。 3. 読み手や聞き手を納得させるように、論理的科学的に英語で自分自身の考えを表現できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルについて十分に理解している。		効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルについて理解している。		効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルに関する理解が不十分である。		
評価項目2	効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルを適切に運用することができる。		効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルをおおむね運用することができる。		効果的なプレゼンテーションのための基本的なスキルを正しく運用することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
JABEE基準 (a) JABEE基準 (f) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 A-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-2							
教育方法等							
概要	学生自身が必要とする英語表現に出会い、英語での自己表現の方法の一つでも多く蓄積していったほしい。そのため、自分で学ぶ習慣をつけることを忘れないでほしい。このプレゼンテーション対策では、英語を学ぶ上での重要事項が多く含まれていることから、授業を通じて一つでも多くの表現を蓄積していったほしい。映画や音楽教材もプレゼンテーション対策として利用することで、英語でのものの考え方を培っていきたい。						
授業の進め方・方法	聴衆を意識し、その聴衆を納得させる「内容の『見せ方』」を、欧米では「大学への授業準備」として高校で叩き込まれる。残念ながら、日本では「言葉を武器」として利用する方法が系統だった教科として確立されず、体験的(主観的)にプレゼンテーションを行っている場合が多い。すばらしい内容を聴衆が求めている『見せ方』であらわせば、決して、聴衆は内容を取り違えることなく、発表者の意図も間違いなく正確に伝わる。 この「英語プレゼンテーション」の授業では、聴衆を意識し、発表者の意図を間違いなく正確に伝える技術を習得し、それぞれの研究をパワーポイントで発表することを目的としている。						
注意点	関連科目：コミュニケーション英語 学習指針：説得力のあるプレゼンテーションを通して、抜け落ちている基礎的な英語文法力や英単語力を補強していく。 自己学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。英語を利用しなければ、忘れることの方が多い。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション Unit 1: Getting Started (#1)		授業の概要と進め方、成績評価の方法などについて説明する。また、Eye contact / Facial expression / Volumeに関するスキルを理解する。		
		2週	Unit 1: Getting Started (#2)		Eye contact / Facial expression / Volumeに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		3週	Unit 2: Voice (#1)		Voiceに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		4週	Unit 2: Voice (#2)		Voiceに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		5週	Unit 3: Gestures (#1)		Gesturesに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		6週	Unit 3: Gestures (#2)		Gesturesに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		7週	Unit 4: Q & A Skills (#1)		Q & A Skillsに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		8週	Unit 4: Q & A Skills (#2)		Q & A Skillsに関するスキルを理解し、実践することができる。		
	2ndQ	9週	Unit 5: Visuals (#1)		Visualsに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		10週	Unit 5: Visuals (#2)		Visualsに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		11週	Unit 6: Rehearsals (#1)		Rehearsalsに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		12週	Unit 6: Rehearsals (#2)		Rehearsalsに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		13週	Unit 7: On Stage (#1)		On Stageに関するスキルを理解し、実践することができる。		
		14週	Unit 7: On Stage (#2)		On Stageに関するスキルを理解し、実践することができる。		

		15週	発表（プレゼンテーション）		これまでの学習内容を踏まえ、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	小テスト		発表	相互評価	課題	合計	
総合評価割合		30	40	10	20	100	
基礎的能力		30	40	10	20	100	